

20 広域的な幹線道路網の整備の促進及び連絡調整に関すること



主管：地域振興課
建設課

経緯

木曾地域における幹線道路網の整備については、平成元年度に策定された「第1次木曾地域振興構想」において「木曾地域交通ネットワーク構想」が掲げられ、基本的な方向づけがなされています。また、平成7年に作成された「木曾地域道路網構想調査」の基本構想では、国道19号の整備促進と共に、その代替路として木曾川右岸道路を位置付けており、長野県や構成町村においてその整備促進が図られています。

平成18年2月には、国道361号の地域高規格道路「伊那木曾連絡道路」が開通し、伊那と木曾が直接結ばれました。伊那市と木曾町が所要時間30分で通年通行が可能となったことから、利便性の向上に伴い様々な圏域交流が進んでいます。

平成19年3月には、木曾地域交通網対策協議会が設立され、数ある道路整備の期成同盟会を統括し、国や県、構成町村による道路整備の推進に協力しています。

現状と課題

急峻な谷間に集落の点在する木曾地域の主な幹線道路網は、南北を貫く「国道19号」と東西に貫く「国道256号」、「国道361号」、国道19号の補完的な役割である「木曾川右岸道路」があります。

これらの路線は、産業活動や地域の生活を支える重要な社会基盤であり、大規模災害等の発生時には、いずれも第1次緊急輸送路となる重要な幹線道路です。

1 国道19号

国道19号は、重要物流道路として物流や産業・観光・文化を支えており、地域住民の生活道路また観光客のアクセス道路として最も重要な社会基盤です。大規模災害等の発生時には、第1次緊急輸送道路としても極めて重要な役割を担っており、国道19号の閉鎖は地域の経済産業、住民生活及び緊急医療活動に多大な影響を与えます。

2 国道256号

国道256号は、木曾・南信州の地域経済を支え、観光のアクセス道路としても重要性が高まっています。リニア中央新幹線の長野県駅（飯田市）と岐阜県駅（中津川市）を結ぶ道路であることから機能強化が求められます。三遠南信自動車道との接続による広域的なネットワーク構築についても考慮が必要です。

3 国道361号

国道361号は、東海北陸自動車道から中部縦貫自動車道を経て、中央自動車道に接続し、首都圏及び中京圏と信州、飛騨、北陸圏を結ぶ最短路線であり、広域的なアクセスとネットワークを形成する重要な役割を果たす幹線道路として重要度が増しています。

木曾町日義の神谷地区において土砂崩落による片側交互通行が続いており、姥神峠道路延伸の早期完了が望まれます。

4 木曾川右岸道路

木曾地域振興構想においては、国道19号の代替路として木曾川右岸道路は位置づけられ、事業の推進が図られています。

環境保護に配慮した上での早期の全線開通が期待されます。

今後の方針

木曾地域交通網対策協議会を中心に、一層の国道 19 号の改良促進や木曾川右岸道路、国道 361 号・256 号の未整備区間の早期着工と主要地方道及び一般県道などを含めた広域道路ネットワークの整備、国道 19 号の雨量規制区間の解消など災害に強い、安心安全の道づくりのための要望活動を行います。

併せて、リニア中央新幹線等新たな交通網に対応した道路網構築についての総合的な調査研究を行います。

施策

- 1 広域道路ネットワークの整備促進に繋がるように調査研究に努めます。
- 2 木曾地域の安心・安全な道路網の整備促進が図られるように関係機関への更なる働きかけを展開します。